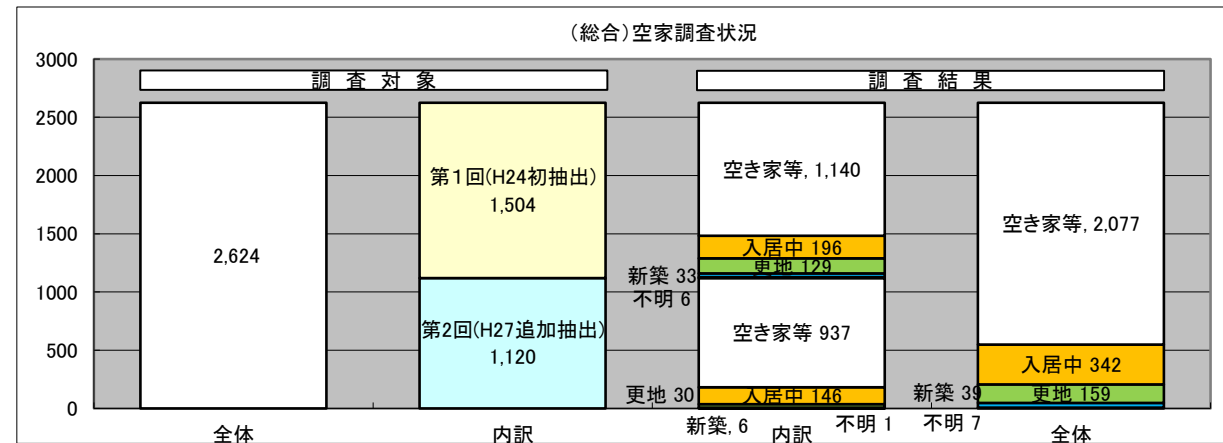


## 第2回小松市内における空き家の実態調査結果報告書

### 1. 調査概要

期間：平成27年7月～平成28年3月

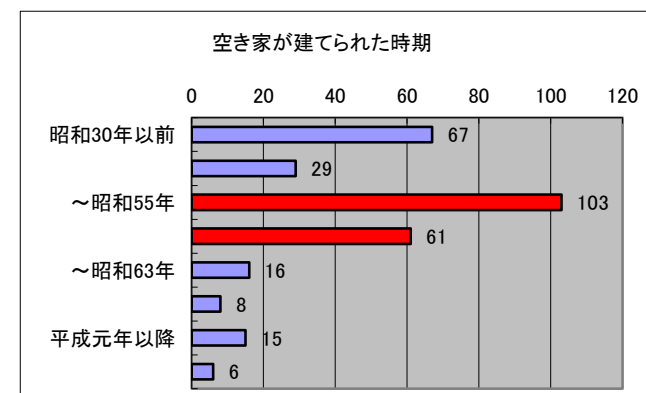
平成27年9月 現地調査 空き家現地調査開始 (2624件)  
 平成27年11月 空き家現地調査終了  
 平成28年1月 空き家所有者へのアンケート調査(308件郵送(回答129件))  
 平成28年3月 全体集計



空き家調査状況について、前回平成24・25年第1回空き家調査結果から、この3年間で25%が空き家ではなくなっていた。これまで市が行ってきた空き家対策事業は一定の効果は見られるものの、これをはるかに上回る空き家件数の結果となった。

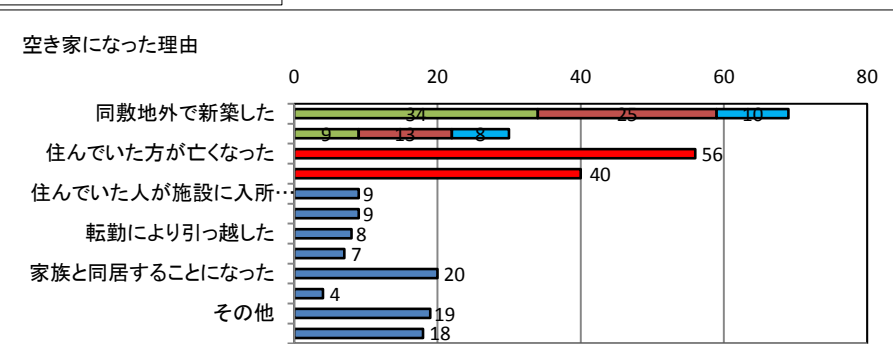
### 2. 空き家の状況(アンケート調査)

小松市内の空き家は、現地調査によれば2,077件である。一方、これらの空き家所有者に対して行ったアンケートでは14.7%の人が空き家を所有していないと回答している。これは客観的に空き家と判断したものであっても、所有者は物置等として利用していることから、空き家は所有していないと回答したものである。このことを考慮すると、小松市内の空き家は1,770件程度と推測される。

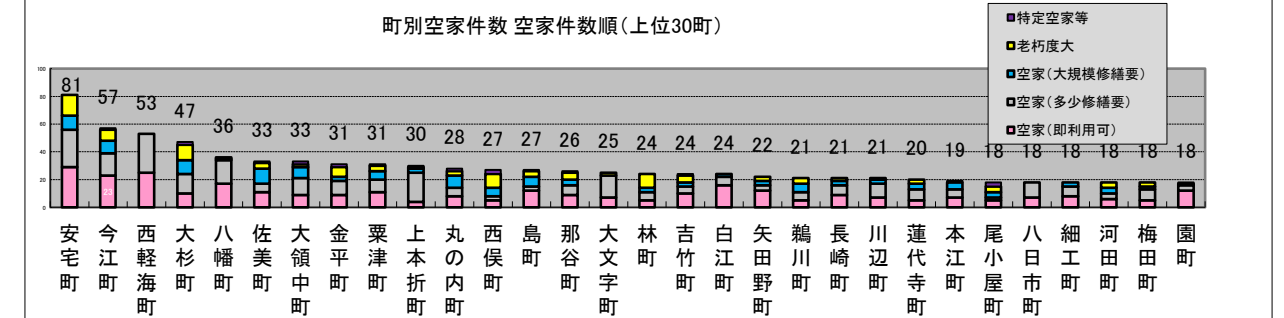
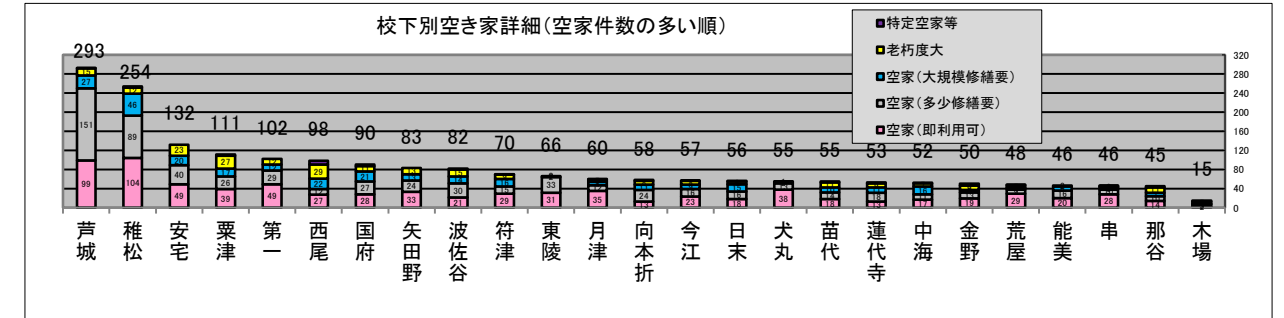
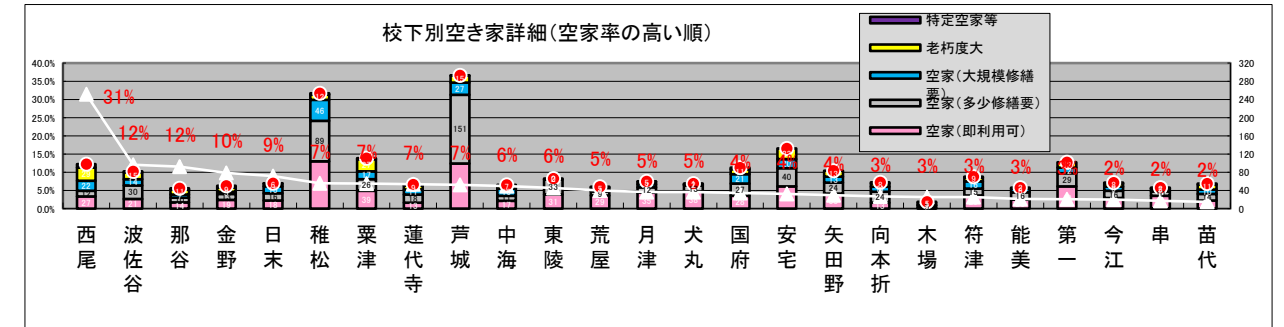


空き家は昭和55年以前に建設されたものが86.5%となっている。建物構造の耐震性について現在の基準に比べるとかなり劣っている空き家が大半を占めていることが推察される。上段が平成24年度第1回、下段が平成27年度第2回のアンケート結果である。※以降同じ

「住んでいた方が亡くなった」が37%となり、空き家になった理由としては、「同敷地外で新築した」が27.8%となった。また空き家の85.8%が管理(清掃や換気、修繕等)をしているとの回答が得られた。



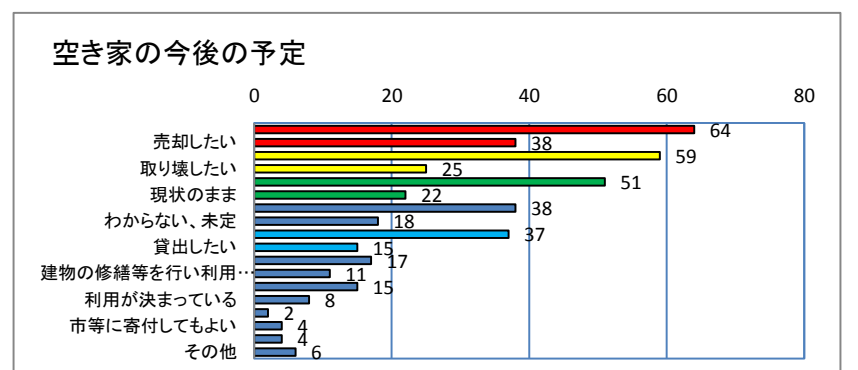
### 3. 空き家の所在(空き家現地調査)



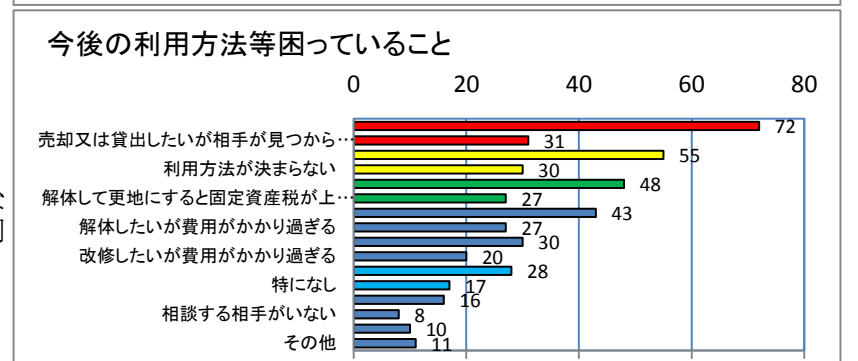
上記のグラフより、空き家率が最も高い校下は西尾校下で31%となっている。その他の校下は2%～12%である。又、件数別にみると、芦城校下が293件、稚松校下が254件、安宅校下が132件、粟津校下が111件となっており、上位2校下はまちなか区域である。町別にみると、空き家件数が多い町の上位は、安宅町が81件、西軽海町が57件、今江町が53件、大杉町が47件となっている。

### 4. 空き家所有者の意向について

空き家の今後の予定について、「売却したい」が14.8%、「取り壊したい」が19.4%となっており、「貸出したい」が12.0%となっている。前回と同じ傾向の結果となった。



今後の利用方法等困っていることについては、「売却、貸出したいが相手が見つからない」が21.8%となっており、次いで「利用方法が決まらない」が18.0%となっている。前回と同じ傾向の結果となった。



### 平成24年空家件数 上位55町



平成24年度第1回空家調査の町別の空家件数上位55町である。

### 平成27年空家件数 上位55町



平成27年度第1回空家調査の町別の空家件数上位55町である。

### 平成24年、27年対比空家増加件数 上位45町

